



## 昇段レポート

早川 徹 参段 (岐阜太田道場)

～ 2019年12月15日取得～



この度 昇段審査受審の機会を与您にいただき、ありがとうございました。  
太田師範に心からの御礼を申し上げます。

昨年、太田師範より参段昇段の話をいただきましたが、まだ自分に受審する覚悟・気持ちが固まりませんでした。

その時点では型等もなんとなく出来るレベルで、師範が常に言われる「やりこんだ型」には程遠い状態でした。また、組手に関しても連続組手が出来るレベルではありませんでした。

それでも 2019年冬の審査会には受審しようと覚悟を決め、少しずつではありますが、昇段審査を意識し稽古を行う様にしました。今まであまり参加できなかった火曜日の稽古も、極力参加する様にしました。当初の『観空』『五十四歩』等の型稽古は、型の挙動の数が多いため、数回行うだけで息が上がる状態でした。また、細かい挙動も曖昧な箇所が多く、師範より何度も指導をいただきました。組手に関してはとりあえずスタミナと打たれ強さと思い、通常稽古以外にもサンドバック、打たせ稽古等を自主トレーニングとして行いました。

また、審査当日は万全の状態に挑もうと思い、習慣であった飲酒を止め、常に規則正しい生活を行う様心掛けました。

審査本番では平常心で挑みましたが、緊張からか力が十分に入らない感じでした。課題であった型に関しては、途中で集中が切れてしまい、何度か間違えてしまいました。

組手に関してもあまり手数が出ず、20人目まではなんとか堪えましたが、21人目以降は何度も強い攻撃を受け、23～24人目あたりで太ももに大きなダメージを負いました。

それでも、師範・道場生の方々家族の声援に支えられながら30人組手を完遂する事ができました。

私の「極真空手」の歴史を振り返ってみると、決して順調ではありませんでした。仕事等の都合でほとんど稽古ができない時期もありました。また、怪我・入院等で家族に大きな迷惑をかけた事もありました。

ただ、自分の子供と一緒に稽古し、試合等に出場したり等、家族の絆を築けたのも「極真空手」のお陰だと思います。

これからも体と気持ちが続く限り「極真空手」に携わっていきたいと思います。

押 忍